

お知らせ

フクロウのピンバッジ

日本鳥類保護連盟から販売されている野鳥のピンバッジシリーズにおいて、牛久自然観察の森・牛久とりの会と日本鳥類保護連盟との共同でフクロウのピンバッジを作成しました。

5月、ネイチャーセンター横のクスギの木で子育てをするフクロウの親子がモチーフになっていて、

ヒナの頭にはクスギの葉をあしらっています。

(今年巣立ったヒナは、「コジュケイの林」やネイチャーセンター周辺で盛んに鳴いているのを確認しています。)

6月からは観察の森のカウンターで販売を開始。ちなみに野鳥のピンバッジの収益の一部は、同連盟の鳥類保護活動のために使われています。(木谷昌史)



さとやま 2014年 夏号(通巻127号)

- 発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1236 茨城県牛久市田宮町 808-20
tel 029-873-8552 fax 029-873-8552
- 事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600 fax 029-874-6812
<http://ushiku-satoyama.org/>
- 編集 木谷昌史

さとやま

1. 表紙 (新緑の雑木林)
2. 雑木林応援隊 (梅林に思いを馳せる!)
3. 自然観察出前講座 (幼稚園児と「生きもの探し」)
- 4.5. 樹木リサーチ事業
平成26年度樹木観察研修見学活動
- 6.7. アヤメプロジェクト
アヤメ園・今年の花期が終わって
8. クラフトプロジェクト
9. 里山保全エコアップ活動
10. 牛久自然観察の森指定管理者
山道池の再現
11. 樹木リサーチ事業
身近な樹木 No.30 ゴンズイ
12. 裏表紙 (お知らせ)

梅林の保全に想いをはせる！

雑木林応援隊では新年度の活動で、緑の保全区整備を加える事になった。

周辺の雑木林の整備に手をつける前に、手始めとして牛久自然観察の森第一駐車場奥にある梅林の整備（補修）にとりかかる事になった。

2月下旬から咲き始め、3月中旬までは、この周辺は梅の香りと見事な花が咲き、訪れた来園者の目を大いに楽しませた梅林も、4月に入ると風雪にさらされた老木の傷んだ姿があちこちに付くようになった。早速、応援隊の隊員の中で樹木管理の経験豊かなIさん（通称棟梁）の指導の下で、補修作業をはじめた。

る材料を取り揃える。支え柱となる木の伐採から始まり、皮むき、寸法の割り出し、支え柱形状（V型）の細工等々、一連の作業を棟梁の指示によってこなす。だが枝が裂けたり、欠けていたり、樹木の内部が腐食したり等、それぞれ傷んだ樹木の状況に合わせた寸法出しや、枝を支える形状を決めるのが難しい。

（ここでは棟梁の経験を積んだ人こそ出来る匠の技が随所に発揮されて、梅の木本来のサポートの仕方がわかり、私達素人には大いに参考になった。

今回の梅林の補修作業では、10数本の傷んだ老木の補修が完成しひとまず安堵したが、今後の梅林全体の樹齢を考えた時、梅の剪定を含めサポートの

方法等を考慮した本格的な対策を考える時期に来ているのではと思われる。

今の梅林は牛久自然観察の森として開園した時、里山の会発足以前から活動していた「雑木林の会」で一緒に活動した仲間とのI.Kさんのお父さんが観察の森に寄贈したものと聞いている。私達にとっても非常に縁があるのだ。

過日、私は行政区内で企画した研修旅行で久し振りに国会議事堂を見学する機会を得た。その時に印象に残った話の中で、国会議事堂前庭の遊歩道には、



1970（昭和45）年議会開設80周年を記念して都道府県からの寄贈の「都道府県の木」が植えられている。ソテツ、イチヨウ、エゾマツなど都道府県を代表する木々が並ぶ中で、茨城県を代表する木は「ウメ」であった。

この木を管理する専門の職員はどの木も枯らすわけにはいかならぬ思いで、一時も気が抜けず細心の注意を払いながら保全を続けているとの事だ。同じ「ウメ」の木でもあり、ふと私達の梅林への想いをはせた！（原口隆男）



自然観察出前講座

幼稚園児と「生きもの探し」

今回は、牛久市内のD幼稚園の園児24名とその保護者31名の参加による、「初夏の生きもの探し」への出前講座の様子を報告します。

（石神良三）



活動のまとめをする石神



メダカの泳ぐ水路



顔をのぞかせるドジョウ

活動プログラムの概要

・日時 6月16日、9時30分から11時

・場所 牛久観光アヤマ園

・内容 始めの会、生きもの探しと観察、まとめの会

●講座を担当した里山の会の皆さん

今回は参加者の人数を考慮して、小松さん、坂さん、平塚さん、三浦さん、石神の5人で、小グループを担当

参加者の関心と意欲を高めるために用意したものを

・園内で生息するメダカ、ドジョウ、アマガエル、バッタ、コオロギなどを観察ケースに入れて展示
・水生昆虫や湿地の生きものもの
図鑑

体験活動で学んだこと

園児達は手に手に飼育ケース、採集網、バケツなどをぶら下げて、得意気にやってきた。

「生きものをたくさん捕るんだ」という思いが伝わってくる。こんなワクワクする気持ちを体験できるだけでも貴重な体験になるだろうと思う。

いよいよ生きものたちとの対面だ。格闘する姿の「ユメ」を覗いてみよう。

・園児達が目にし興味を持って追い始めたのはメダカの群れだ。数匹の群れを採集しようと、網やバケツを使って悪戦苦闘するが失敗の連続。そこでグループ担当のMさんによる「追い込み」方式の伝授があった。一方に網を置き、その方向に追い込んでいく方法だ。一人ではなく二人以上の友だちと協力すると成功することを体験し、歓声があがった。自己中心性の強い園児たちにとって、「友だちと協力し助け合えばいろいろなことができる」というこの体験は、大きな収穫であったと思う。

樹木リサーチでは昨年度に続き、メンバーの樹木に関する知識や里山の環境保全に対する認識を深めることを目的として、今年度も6回の予定で樹木観察見学研修活動を行うことにいたしました。

既に第1回は5月4日(日)牛久沼東岸斜面林の自生樹木や草本植物の観察活動を行いました。照葉樹林に被われた斜面の崖はスタジイ、シラカシなどの高木層、シロダモ、モチノキなどの亜高木層、アオキ、ヤツデなどの低木層とベニシダなどの草本層で構成されていること、斜面と低地の境界の湿地にはヤナギ類やハンノキが生育していることなどや遷移の様子を学び、日頃何気なく見ている風景が大変貴重な場所であることを知りました。

第2回は6月13日(日)市役所8時30分出発、牛久市のバスによる樹木観察会でした。

目的地は茨城大学農学部構内と、森林総合研究所樹木園です。広報で募集した市民の方11名とメンバー10名の参加で、まずは茨城大学農学部に向かい9時到着、樹木観察活動責任者の平塚さんより市民の方に「樹木リサーチプロジェクト」の説明と、渡辺代表から「南裏市民の森」のパンフレットおよび『牛久の里山樹木ハンドブック』の活用法などの紹介を受けて、観察に入りました。

構内は教育的目的から様々な樹木が植栽されており、街路樹、庭木など主に造園関係樹種について、同じ属の樹木が並んでいて比較観察が容易でした。例えばプラタナスとよばれているモミジバズカケノキは、樹皮がスベスベして集合花(果実)は3〜4個付き、その親であるアメリカズカケノキはゴツゴツした樹皮と集合花は普通1個であることをその

～樹木リサーチ事業～

平成26年度樹木観察研修見学活動



①茨城大学農学部樹木園で樹木観察活動の趣旨・日程等の説明。

撮影：①および③戸塚 / ②渡辺 13.6.22



②熱帯果樹ゴレンシの成熟前果実。



③ナナメノキの樹皮に表れた人の目形。

場で触れて確かめることが出来ましたし、その周囲の高木のユリノキ、タイサンボク、ヨーロッパナなども観察しました。里桜も多数植栽されており、花の季節は見事と思われました。桜は古来より続く梅の文化に代わり室町時代以降300近い里桜が誕生したそうです。

構内をさらに進むとカタバミ科のゴレンシとゆう珍しい熱帯果樹があり、別名スターフルーツとよばれている星形の果実(写真2)に触れ、海外旅行ですでに試食した人もいて会話が弾みました。その他台湾に自生するとゆうシマサルスベリの大木も印象に残りました。

11時バスで次の目的地のつくば市所在の森林総合研究所に向かいました。所内には樹木園があり、樹木の形態や性質の観察・各種の研究材料として利用するための重要な施設と

なっています。また森林・林業の理解を深める場になるよう、一般に公開されており、日本の森林帯の区分別に主な樹種が植えられています。

本日は当地域が該当する「暖帯樹木」を中心に観察しました。シイ・カシ類やエノキ・ムクノキ・クスノキなど里地にみられる樹木や茨城県が北限のカゴノキ、樹皮に人の目形が見える不思議な姿のナナメノキ(ナナミノキ・写真3)に皆の関心が集まりました。次のササ・タケの見本園では牧野富太郎博士が自分の妻の名をつけたとゆうスエゴザサもあり、タケの種類の多さに驚きました。

渡辺代表の解説を熱心に受ける初対面の参加者の方ともすっかり打ち解け、楽しく充実した研修見学会となりました。

(小松友枝)

アヤメ園管理業務

アヤメ園・今年の花期が終わって

平成26年6月、今年も花菖蒲の季節がやってきました。うしく里山の会が牛久市から受託して9年目を迎えました。受託時から現在のまでのプロジェクトの背景等については会報里山の前号をご覧ください。

毎年6月の開花に向けて、上半期は大変神経を使う季節となります。早春の2月、堆肥の施肥から作業は開始されます。この時期は大変寒い時期で、霜柱によって株が地上に押し出されて株が枯れてしまうという問題も発生します。そして春4月、芽だしの時期です。ここから本格的な施肥（芽だし肥）を与えると、雑草にも栄養が渡り、雑草の生育が急速に早まっています。ここからのメインの作業が除草で、来る日も来る日も除草に明け暮れます。そして5月、気温もぐんぐん上昇し、アヤメ園の片隅にあるアヤメの圃場（*牛久市観光アヤメ園は9

9%がハナシヨウブ、1%弱がアヤメ、カキツバタが若干見られます）では紫のアヤメが咲き出します。アヤメの開花と同時に早咲きのハナシヨウブも一輪二輪と咲き出します。この時期になるとハナシヨウブは既に発芽し、日ごとに新芽が伸びていきます。新芽を傷つけないように注意を払いながら、除草作業が続きます。この時期は雑草との除草競争で、競争に負ければ開花期に雑草の原と化すからです。

そして開花期6月入りすると、お客様の姿もちらほら、綺麗なアヤメ園で気持ちよく見ていただくために、園路の機械除草が初旬に一度、更に一週間後にもう一度行います。ハナシヨウブは日を追うごとに数を増し、6月の中旬には満開となります。見応えのある期間は一週間で、6月13日の前後3日間（今年の実績）でした。この開花期間はお客様に最高レベルでご覧いただくために毎朝「花柄摘み」を行ってきました。花柄とは花が咲いた後、萎んだ花柄がついていることは見苦しいばかりではなく、鑑賞する方にとっても、写真を撮る方にとつても最悪の状態です。朝一で花柄を摘んでも綺麗な状態は半日しか持ちませんが、それでも見る方にとつてはありがたいことなのです。

今年の上ピックスとしては、アヤメ園のトイレが新装になったこと。観光で訪れるお客様にも堂々とお使いいただける施設になったことで

す。その情報が伝わったのかどうかは分かりませんが、県外からの観光バスが数多く来園されました。いずれの時間も午後ですから、潮来、佐原とアヤメのツアーだったのかもしれない。そこから降り立ったお客様からのコメントが嬉しいことばかりでした。

「お客様のコメント」

1. ここは花柄が付いていない
2. 密集していて実に華やかだ
3. ロケーションが最高、背景の里山と牛久沼がいい
4. 綺麗なハナシヨウブをありがとう
5. 来年も来ますよ

等々、ありがたいお言葉を数多く頂戴しました。

アヤメ園のメンバーにとって、つらい作業の連続ですが、この時期のお客様のお言葉が一番励みになります。よし、来年はもつと咲かせてやろうというのがアヤメメンバーの偽らざる心境です。（坂弘毅）



里山保全

結束町みどりの保全区

エコアップ作戦参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町みどりの保全区の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

活動日時 9月：5日(金)9:00～11:00、21日(日)13:00～15:00
10月：3日(金)9:00～11:00、19日(日)13:00～15:00
11月：7日(金)9:00～11:00、16日(日)13:00～15:00

集合場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前

予約 不要／荒天時は中止

持ち物 長靴 軍手 長袖 長ズボン

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先 029-874-6600 (担当木谷)



クラフトプロジェクト

25年度公益信託「エコーいばらき」環境保全基金から100,000円の助成をいただきました。助成金によって、間伐材等を利用して木工製品(クラフト・おもちゃ)を作り、里山の自然の大事なことを子供たちにあそびながら教えていく。その第一歩として、今回はクラフトプロジェクトで、木工旋盤を購入し効率よい加工を行っています。(佐藤輝雄)





結実期の樹形と種子が現れている裂開果実

戸塚 12.9.13 観察の森

ミツバウツギ科ゴンズイ属の落葉広葉樹の小高木（高さ3〜6 m）です。本州（茨城・富山県以西）・四国・九州・琉球の主に二次林（原生林が自然現象や人の影響などにより破壊された跡に成立した林）や林縁に分布しています。県内では北部に少なく南部には普通に見られ、市内では斜面林や林縁に広く生育しています。

春先に枝を切ると、樹液があふれます。樹皮は黒緑色で、灰褐色の縦長の不規則な割目が入ります。葉は対生し、奇数羽状複葉で長さ10

名前の由来は諸説ありますが、材がもろく役に立たないので、同じように役に立たない魚のゴンズイの名がつけられたといわれています。（阿部愛子）

樹木リサーチ事業

身近な樹木

No.30 ゴンズイ

30 cm、5〜9枚の小葉をつけます。小葉は狭卵形、表面は濃緑色で光沢があり、縁がやや波うち、細かいギザギザがあります。

花期は5〜6月、長さ15〜20 cmの円錐花序に直径3〜4 mmの黄白色の小さな花を多数つけます。雄しべは5個、雌しべは1個、柱頭は3裂し、雄しべと雌しべはほぼ同じ長さです。

果実は肉質の袋果で、長さ1 cm程の半月形です。9〜10月、赤色に熟し、反り返って裂開し、直径5 mm程の光沢のある黒い種子が1〜3個現れます。写真のように果肉の赤と種子の黒のコントラストが鮮やかです。秋の葉の色つきは紫黒色というか、やや黒ずんできます。



牛久自然観察の森指定管理者 山道池の再現

昨年度から始まったHACOBIO事業。牛久市周辺の水辺の生き物の生態展示・昭和30年代の水景の再現をテーマとし、今年5月には、3台の水槽が新たに加わり、合計9台の水槽による展示が始まりました。ちなみに、事業名のHACOBIOは「箱の中のビオトープ」を派生させた造語。生態系に近い形で再現させるため、各水槽には必ず水生植物を一緒に展示するように工夫を凝らしています。

このような再現したいくつかの水景のなかで、夏号では岡見城址の麓にある山道池（谷が埋まって、または埋めて出来た池）を再現した水槽について紹介したいと思います。

この水槽の大きさは縦2 m 40 cm 横60 cm 高さ25 cm。幼児でも水槽内の生き物が観察できるようにキャビネットの高さは55 cmと低く設計されています。水槽内では、池に落ちた倒木や池の土手をイメージし陸上部分と水中部分とを造っています。谷にある池の斜面は、木で覆われ日陰になっていることが多く、場所によ



山道池の水景

埋め立てられてから年月が経ち、斜面林が池を覆うように成長している

ては水がしみ出しているところもあります。この水槽ではそういった環境を好むシダやコケ類を流木や古木に活着させています。またコケの上で芽生えるカエデをイメージし、イロハモミジの実生も植栽。枯れた個体もありましたが根付きは今のところ良好です。その他、水槽内では比較的明るい場所を好むくるせり・ヤナギを雫が落ちる箇所に植え込むようになっています。

現在、飼育している動物は、アマガエル（オタマジャクシ）、ドジョウ、メダカ、オニヤンマ。上からそして、横（水中）からと、視点を変えながら生きものの達の生態を観察することができますよになっています。

今後の目標は、動植物種を増やしながらか再現性を高めること。そして旭山動物園のような生きものが躍動する生態展示の創作。

課題は多いですが、よい事例を多く次世代に引き継いで行きたいと考えています。（木谷昌史）